

第 63 期生 「継灯式」

3月9日(火)厳かな雰囲気の中、「第63期生 継灯式」を行いました。
2年生37名一人ひとりが、クリミアの天使とも呼ばれたフローレンス・ナイチンゲールの像から命の灯りを受け継ぎ、看護師を目指す誓いの言葉を宣誓しました。
コロナ禍で規模を縮小しての実施となりましたが、ご参列いただきました保護者の皆様
に感謝申し上げます。

第 63 期生 誓いの言葉

私たち63期生は、変化する社会情勢や医療ニーズの中で、看護師という職業に誇りと自覚を持ち、患者さん一人ひとりの価値観や尊厳、その人らしさを大切に、個別性のある看護を提供することを誓います。そして、常に笑顔を絶やさず、患者さんの心に寄り添い、安全・安楽な看護を実践するために仲間とともに、知識・技術を磨き、学び続けることを誓います。



以下に学校長式辞を掲載します。

令和二年度

新潟県立新発田病院附属看護専門学校

継灯式 学校長式辞

新潟県立新発田病院 附属看護専門学校六十
三期生の皆さん、本日は待ちに待った継灯式を
迎えました。おめでとうございます。ただいま
は お一人お一人の力強い誓いの言葉を聞かせ
ていただきました。看護の道に進む決意をしつ
かり表し どれも立派で 心から嬉しく思いま
した。この緊張感の中で立てた誓いは 皆さん
にとって とても価値があるものだと思います。
これからの長い看護師人生の中では 辛いこと
や迷うことがあると思います。そんな時に 今
日の誓いの言葉を思い出してください。誓いの
言葉は 看護職を目指そうとした初心に戻して
くれるでしょう。そして前に進む勇気を与えて
くれる魔法の言葉になると思っています。

さて、皆さんは一昨年春の入学から二年を経
て 立派に成長しました。この二年間の充実度

は これまでの人生の中でも 非常に高いのではないでしょう。この著しい成長を受けて臨地実習は益々本格的になります。現段階で知識や技術に不安があるのは当然です。実習現場の厳しい現実には 思考停止に陥るかもしれません。不安の中で 自分自身に過剰な関心が向くと 更に緊張するかもしれませぬ。そんなときは 関心を患者さんに向けよう訓練しましょう。患者さんの視線になって 周囲にある課題を見直してください。あなたが自身の不安を気にかける前に 困っている患者さんや家族が目に入るようになります。どのような心配や苦痛があるのかな？病気は何なのかな？家族構成はどうなのかな？支援する人はいるのかな？幸せな人生なのかな？

さて、何から聞いてみようか？どんな風に話しかけてみようか？。患者さんの周りは謎や疑問の固まりのほすです。そんな疑問に意識が集中できれば いつしか自分の不安を気にする暇はなくなっていくものです。そんな「患者さんファースト」は看護のプロの基本姿勢だと思っています。

最近の世の風潮は 他人に干渉せず 個人を尊重して個を大切にされる流れです。ケアの世界以外なら「余計なお世話だ。」と叱られそうですが、医療や介護の世界では 介入やコミュニケーションは人間支援や生活支援の基礎として欠かせません。皆さんは実習の中でその基本を学び 人間的な疑問や興味を 看護に欠くことのできない情報に昇華できるようになります。そして、会話のたびに患者さんとの距離を縮めると同時に 患者さんに気づきを与え 気づきは生きる力に結びつきます。

そうは言っても 万事が容易にうまくいくとは限りません。必ず困難な場面に出会うと思います。医療においては 豊富な知識や優れた技術が第一と考えがちですが、看護を実践すると 医師とは違うアプローチがあり 人の心を救う灯があると私は思っています。

その時必要なのは 決して諦めない辛抱強さです。そして いつまでも待てる忍耐力です。さらに困難に立ち向かう勇気と患者さんへの思いです。今日は皆さんの思いと姿勢を誓いの言

葉として聞かせていただきました。

皆さんが引き継いだ看護の心と灯は その源を フローレンス・ナイチンゲールに発するとされています。ナイチンゲールは昨年五月に生誕二百年を迎えました。ナイチンゲールは三十四歳で三十八名の看護師を率いクリミア戦争に従軍しました。当時の日本は江戸時代でしたから、ヨーロッパの文化の進み具合や女性の存在感に驚きます。ナイチンゲールは看護の実践だけでなく、衛生状態の差による生死の差を論文にし、公衆衛生や疫学の母とも呼ばれる医学者でもあります。ナイチンゲールは四十歳で看護学校を開き、その思いは看護覚え書として伝わっています。ナイチンゲール自身は健康に恵まれません。現場にはあまり立てませんでした。看護教育を通じて世界中に思いを伝えていきます。

今日引き継いだろうそくの灯は、そのようなわれのある大切なものです。健康を害すると心は動揺し 寄り添うことを拒み 言うべき言葉を失うこともあります。看護の心を引き継いだ皆さんは そんな患者さんに寄り添い 形に表れていない患者さんの心の傷を癒すことを心

がけてください。患者さんが自分を取り戻し、自分の言うべきことに気がつくように心配りをしてください。そんな働きかけに やがて患者さんは 人への信頼を取り戻し、警戒心や恐怖心から解き放たれ、傍に寄り添った皆さんの存在に感謝するでしょう。そんな心震える経験を夢に見て、次の実習に出てください。

人への気遣いは大切ですが 自分へのいたわりも忘れないでください。時には自分に関心に向け 完璧でない自分をいとおしむ時間も大切です。

今日は 今ある自分を振り返り、これまで有形無形にご支援をいただきました ご両親様ご家族様 関係者の皆様に感謝の念を持つ機会にしてください。謙虚に感謝する姿勢は 必ず患者さんに通じる力を増すと私は信じています。終わりに 本日ここに集まった皆様のご健康とご多幸を祈念し、学校長式辞といたします。

令和三年三月九日

新潟県立新発田病院附属看護専門学校長

塚田芳久